

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571500513
法人名	有限会社 ウェルフェア
事業所名	グループホーム かがやき
所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下田島12372番地 (電話)0985-36-1220
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 20年 10月 31日

【情報提供票より】(平成20年10月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	11 人, 非常勤 人, 常勤換算 11 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4)利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮元整形外科医院・山内内科医院・日高胃腸科医院・佐土原中央歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療施設に併設された洋風建築の2階部分がグループホームで一階はデイケアになっている。家族とスタッフの協力で利用者本人を支えられる関係を大切に家族と共に自立に向けた無理のない支援をしている。日常生活動作の維持向上のためラジオ体操や廊下を歩くなど取り組んでいる。また、施設長は利用者の楽しみは、食事にあると、管理栄養士の献立を基にバランスの取れた栄養とカロリー、咀嚼に応じた食事の提供と誕生会等では行事用の器に色取りよく盛りつけられたご馳走と手作りケーキは利用者には喜ばれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員で話し合っ、地域の交流を取り入れた理念を明示し、毎日の散歩での挨拶など少しずつ実践出来ているが、理念をより分かりやすく実現可能な表現に取り組む予定である。前回の改善課題については、職員全員で話し合っはいるが、改善にまでは至っていない。更に今後も引き続きサービスの質の向上に取り組まれるよう期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の改善点について、職員全員で評価の意義を理解しながら話し合い、検討し取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の区長、利用者家族の出席のもと2か月に1回開催し、利用者の状況報告やターミナルケア等についても説明しているが、外部の出席が無いまま開催されることもある。委員以外に市町村の担当者や地域包括支援センター職員や民生委員等の出席が得られるように日時の設定の工夫などに取り組みたいとの意向があるので、今後を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議では意見を出してもらえるように働きかけ、家族の意見に添うよう検討している。さらに家族の希望や意見を出してもらえよう、話しやすい雰囲気作りや機会づくりなど工夫してほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の夏祭りに近隣の人にもチラシを配るなどの働きかけをするとともに、散歩時に挨拶をしたり、地区の商店で買物したり、少しずつ地域交流に努めているが、更に地域の自治会や老人会、文化祭等の行事に参加し、貢献できるような取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を見直し、地域との交流を取り入れたホーム独自の理念を事務所や利用者・家族にも見える所に明示している。		理念は再度見直し、分かりやすく具体化したものを職員全員で話し合っ作る予定にしており、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてミーティングの時に話しているが日々のケアをする中でも折にふれ話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の夏祭りに近隣の人にもチラシを配るなどの働きかけをするとともに、散歩時に挨拶をしたり、地区の商店で買物したり、ボランティアの訪問など、少しずつ地域交流に努めている。		ホームから地域の自治会や老人会、文化祭等の行事に参加し、貢献できるような取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で取り組み、外部評価の改善点についても、話し合って検討し取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の区長、利用者家族の出席はあるが、時には、外部からの出席が無いまま開催されている。市の担当者、包括支援センターに依頼しているが、参加は得られていない。	○	会議に委嘱している人のみでなく、民生委員や近隣の人、消防団や警察署、行政関係者にホームの理解を深めるために参加の働きかけをお願いしたい。また、日時の設定の工夫などに取り組むたいとの意向があるので、今後を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政指導以外に運営推進会議等市と行き来するような機会はあまりない。	○	行政指導を契機に市の職員に問い合わせするなど行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組まれるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時や電話を利用したり、手紙を書くなど日頃の状態を報告し、意見を聞くようにしている。		誕生会やボランティア訪問など日常生活の記録がアルバムにしてあるので、ホーム便りで職員の異動などと共に報告されると安心と喜びと信頼が得られるのではないだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や運営推進会議で意見を出してもらえるように働きかけ、家族の意見に添うようにしている		家族の希望や意見を出してもらえるよう、話しやすい雰囲気作りや機会づくりなど工夫してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージが生じることを理解し、異動や離職がある時は、ミーティングでケアについて話し合い、ダメージの軽減と配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中で新人職員には、管理者等が指導し、勉強会やミニカンファを行い日常のケアの取り組みを共有する他、外部研修にも参加している。		研修受講後の復命書での報告や回覧など職員全員の質の向上に取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他の事業所から情報を得ることはあるが、同業者との交流とまでには至っていない。	○	グループホーム連絡協議会での研修等に参加するなど、地域の同業者と交流する機会を持ち、相互訪問するなど、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用される前に管理者が本人の自宅などに訪問し、話を聞いたり状態をよく聞いた上で、本人や家族にホーム見学と説明をし、納得してからサービスを開始している。慣れるまでは、職員間の申し送りなど情報を共有するように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から菜園の野菜の作り方や昔の生活や戦争の話聞かせてもらう等利用者と職員、利用者同士が互いに支え合う場面が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が担当する利用者の話を聞いたり、日頃の様子を観察して、希望や、意向の把握に努めている。	○	一人ひとりの出来ること、出来ないことを把握し、出来ないことにサービスを提供するのみではなく、残存能力の維持、認知機能の維持・改善に目を向けた情報を収集し、本人本位に検討してほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人・家族の希望を聞いており、家族、施設長、担当職員とでケース検討会での話し合いを基に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価は、ミニカンファで職員が意見を出し合って月1回行っている。又、期間に応じて3か月に1回の見直しと状態の変化に応じた見直しを随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年末年始の外泊や家族との外出、病院受診や、法人母体の医院でのリハビリを受ける等の支援をしている。	○	利用者のこれまでの馴染みの関係を維持できるように個別の外出支援や、地域の人々にとって認知症ケアの相談の拠り所になるなどホームの多機能性を活かしてほしい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族がしているが、薬や日頃の体調などの情報を提供し、適切な医療を受けられるように支援している。母体の医院から朝、夕医師が様子を見に訪れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族と医師、関係者と話し合い、ターミナルケアを行い、現在も家族と本人の希望で、看取りまで行う予定で取り組んでいるところである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入れ替わりがあつて、全員で話し合い、嫌がることはやめ、良かったと思われることや、言葉づかい、声のトーンなどに注意することを実践している。個人情報の取り扱いに注意し、外部に持ち出すことはしない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先とならないよう、利用者の話をよく聞くなど、利用者の自主性を尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の楽しみの一つは食事という施設長の考えから、行事食はおもてなしの料理で、美しく盛りつけられた器から美味しいといいながら箸が進んでいた。	○	職員が一人むせる人の介護をしたりお茶を催促する人のお世話をしていたが、利用者と同じ食事を一緒に楽しみながらも介護は出来るのではないだろうか、一緒に準備をしたり、後片づけだけでなく同じテーブルで同じ食事をするよう再考をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に1日おきに入浴することになっているが希望があればいつでも入浴できる体制は出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の準備や掃除を職員とともに行い、洗濯物たたみ等は積極的に、菜園では植え付けや収穫をして喜びを分かち合っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体状況に合わせて、散歩を毎日の日課とし、時には、近所に買物に連れて行くこともある、年に数回は花見やブドウ狩り等に家族と共に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段降り口の柵には転落事故防止のために鍵をかけている。エレベーターの扉にはドアベルをつけ、何時でも対応できる体制である。外に出る利用者の行動は把握しており、その時間帯は注意している。	○	利用者にとって鍵をかけることの弊害や、また家族や地域の人々が訪ねやすい環境づくりからも鍵をかけない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設病院・デイケア合同で避難訓練を年1回行われているが、夜間を想定した訓練や地域住民の参加もまだ行われていない。	○	マニュアル作成と地域の消防団、警察や運営推進会議のメンバー、近隣住民等の協力を得て訓練の実施に取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設医院の管理栄養士により、病状にあわせた栄養、カロリー、食事形態も含めた献立表や調理法に基づき作られた食事を、職員が声かけや介助など摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには大きなゆったりとしたソファが置かれ、和紙フードの電灯の明りが軟らかでテーブルの季節の花をより鮮明にし、ベランダの植木や花がガラス戸越しに眺め2階に居ることを忘れる。一段高い和式の間には掛け軸や炬燵があり落ち着いた風情を醸している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンス、仏壇などその人にとって大切な物がそれぞれ居室に置いてある。思い出のスケッチブックや毎日の日記など自宅と同じように安心して落ち着ける場所となっている。		